

最近の学生とのコミュニケーションのコツ

学生サポートセンター相談課長

岡昌之

人と人のコミュニケーションのコツの第一は、相手の気質、思考や感情のあり方をよく理解することです。いわゆる若者論というのがありまして、最近の若者はどうですかとか聞かれますが、若者論が先入観になってはいけません。時々耳にするのが、たとえば最近の若者は「甘えている」とか「逃げていますか」あるいは「精神的に未熟だ」とかいうのがありますが、このような論調が一般受けするときもあるかもしれませんが、相談員としての現場の体験からいうと粗雑な議論に陥ることが心配です。

たしかに『甘えの構造』という本は名著ですが、この本がベストセラーになると、世間では猫も杓子も「それは君の甘えだ」というような論調になりました。また『逃走論』という本もひと頃読まれ、さらに後では『成熟拒否』というような本も売れたようです。これらの本をていねいに読めば、単純に若者を決めつけたりすることはないはずなのですが、実際には種々のステレオタイプの若者論が跡を絶ちません。

とはいえ私自身も若者に関する先入観からまったく自由であるかは疑問ですが、私なりに感じることを言葉にすれば、現代の若者の精神構造は繊細でかつ複雑・多様であるということです。これは長い間学生相談の仕事をやってきた私の実感です。いちおうこの視点から学生をサポートするコツをまとめてみたいと思います。まず最近の若者が年長者との会話の中で多く用いる「別に・・・」という言い方があります。このことに関しては、多くの方の合意を得られるでしょう。

この「別に・・・」という言い方は、自分を相手と安直に一緒にして欲しくないという若者の密かな願いを表わしているとも考えられます。いわば、関係の中に距離をもちたいという要求です。繊細な精神構造ゆえの要求といえるでしょう。逆説ですが、この微妙な要求を精確に理解できると関係が安定し、また条件が整えば深まるのです。反対に、この微妙な気持が無視ないし誤解されると関係は不安定になり、困難になります。「うざい」という言葉がこのあたりを表現しているようです。

さらに関係が困難になると、「むかつく」ということになりかねません。この言葉は、いかにも現代の若者の感じやすさを表わしているようです。いわば「清濁併せのむ」ことが苦手な感じですか。これを「ひよわ」といってしまっただけでは、対話のコツがつかみにくなります。繊細さを感じ取るためには、中高年の側にも繊細さが必要です。世代を超えたコミュニケーションを乗り切るインテリジェンスが求められるのです。

ある個人が、自らの繊細さや複雑さを周囲から理解されずにいると、最後のところで「切れる」ということになりかねません。それを「甘えだ」と非難してもあまり効果はありません。「逃げています」と追求しても同じことです。この「逃げています」という非難は、時に非常に危険な言葉にもなります。いわば困惑している人間の最後の逃げ場を奪うことになるからです。孫子の兵法にも、敵の「退路を断つな」という言葉があったように記憶します。敵でなくとも、お互い強い人間はいざ知らず、精神力がとても弱っている人に対して、やはり理解力の弱い人が苦し紛れに「逃げています」とかいう言葉を突きつけることは最悪の展開になる危険性があります。お互い弱い人間同士であるという事実を認めあうことが肝心です。

困難な状況にいる若者は、心の奥底では何らかの援助を求めています。その心のありよう、表れを感じ取る繊細さが援助者の側に求められます。相手の言葉の微妙な味わいを大切にして、そこに会話のよりどころを発見できれば、「別に・・・」とか「むかつく」とか「うざい」とかいうような言葉も、相手の微妙な気持の表われとして受け止め、こちらも余裕を忘れずに対応できるでしょう。

やはり孫子の兵法に、「彼を知り己を知れば百戦あやうからず」というのがあったと記憶します。戦争ではありませんが、これが深刻な事件が多く報道される先行き不透明な現代を生き抜く知恵でもあることは言うまでもないでしょう。学生とのコミュニケーションにも、これは生かされるのではないのでしょうか。